

利得切換式
地上デジタル放送対応
屋外用電源分離型ブースター

UHF増幅
MODEL N42DU2

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上の注意」をお読みください。



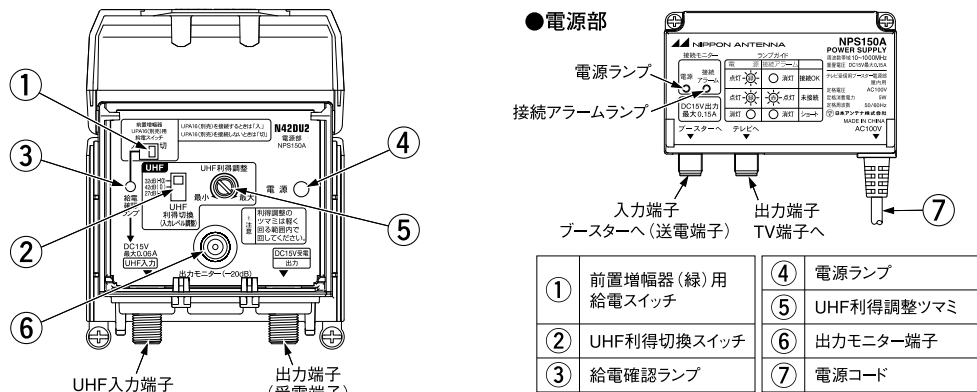
DHマーク（デジタルハイビジョン受信マーク）は一般社団法人 電子情報技術産業協会が審査・登録された一定以上の性能を有する衛星アンテナ、UHFアンテナ、受信システム機器に付与されるシンボルマークです。

- 同梱品
- 防水キャップ……………2個
5C F型接栓（リング付）……………4個
Uボルト（本体取付済）……………1個
蝶ナット（本体取付済）……………2個

マスト受け金具（本体取付済）……………1個
取付ねじ（本体取付済）……………4本
取扱説明書（保証書付）……………1部

出荷時の設定 ●利得調整 最小、利得 32dB側 ●前置増幅器用スイッチ "切"

各部の名称

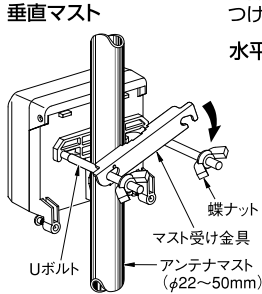


取付方法

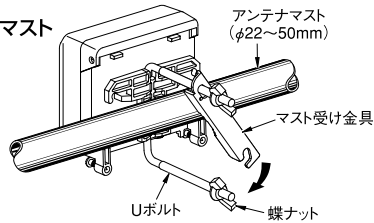
●マスト取付の場合

○Uボルトを使用の場合

Uボルトを持ち上げ、マスト受け金具を挿入し、蝶ナットでしっかりと締めつけます。



水平マスト

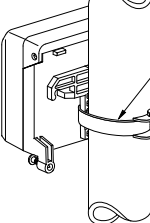


ポイント

水平マストに取付ける場合は、一旦蝶ナット、マスト受け金具、Uボルトを取りはずし、Uボルトの取付方法に従い、再度取付けてください。

○ステンレスバンド(市販品)を使用の場合

ステンレス幅5～20mmのものを使用してください。マスト受け用金具とUボルトは取りはずしてください。



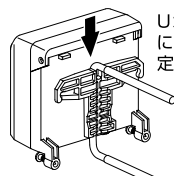
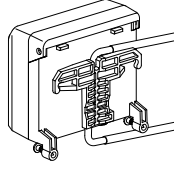
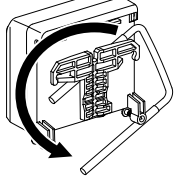
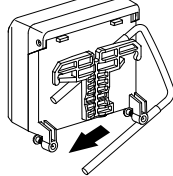
●Uボルトの取付方法 水平マスト時

蝶ナットとマスト受け金具は一旦取りはずします。Uボルトの取りはずし方をご確認ください。

①矢印の方向にUボルトをしっかりと奥まで挿入してください。

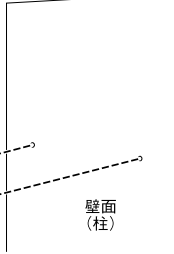
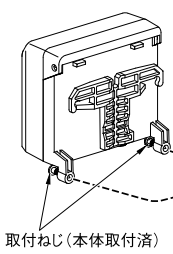
②挿入後、矢印の方向にUボルトを回転します。

③Uボルトを回転して、マスト受け金具を挿入し、蝶ナットでしっかりと締め付けます。



●壁面取付の場合

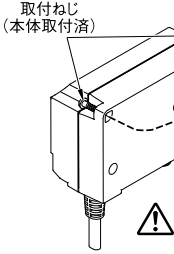
本体にセットされた取付ねじ2本でしっかりと固定してください。マスト受け用金具とUボルトを取りはずしてください。



●電源部の取付かた

○壁面取付の場合

取付ねじ2本でしっかりと固定してください。



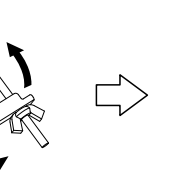
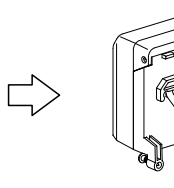
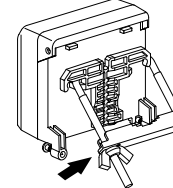
注意 電源部は屋内用です。屋外では使用できません。

Uボルトの取りはずし方

①蝶ナットをゆるめてUボルトを少し持ち上げます。

②Uボルトを右にずらしてUボルトの右側をフックからはずします。

③次にUボルトを左にずらしてUボルトの左側をフックからはずすとUボルトがはずれます。



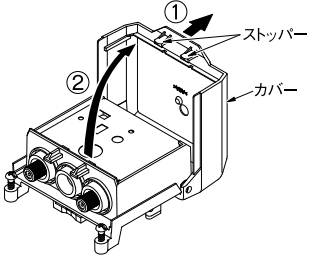
ポイント 再びUボルトを取付ける場合は、逆の手順で取付けてください。

設置場所・条件

- 高温の場所、有毒ガスなどの発生する場所はさけてください。
- 増幅器や電源部は発熱しますので、熱のごもる場所はさけてください。
- 電気配線、電気工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
- 増幅部や電源部はメンテナンスに容易な目の届く場所に設置してください。

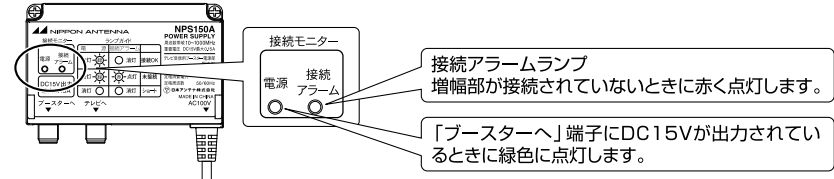
■ケースの開けかた

カバーを上側へ持ち上げると開きます。カバーは本体に対して直角程度まで開くとストッパーで固定されます。操作が完了したらカバーをしっかり確実に閉めてください。



電源部接続モニターの見方

本器の電源部には増幅部との接続状態が確認できる接続モニターを搭載しています。



ランプガイド		接続アラーム
点灯-緑	消灯	接続OK
点灯-緑	点灯-赤	未接続
消灯	消灯	ショート

電源ランプ "緑" 点灯、接続アラーム "赤" 消灯
増幅部は正しく接続されています。

電源ランプ "緑" 点灯、接続アラーム "赤" 点灯
増幅部と電源部が正しく接続されていません。F型コネクタの接続状態や、分配器の電通端子に正しく接続されているか確認してください。

電源ランプ "緑" 消灯、接続アラーム "赤" 消灯
電源部の保護回路が働いている状態です。下記のショート時の注意に従ってショートの原因を取り除いてください。
またAC100Vに接続されていない時も両ランプ共に点灯しません。

■ショート時の注意

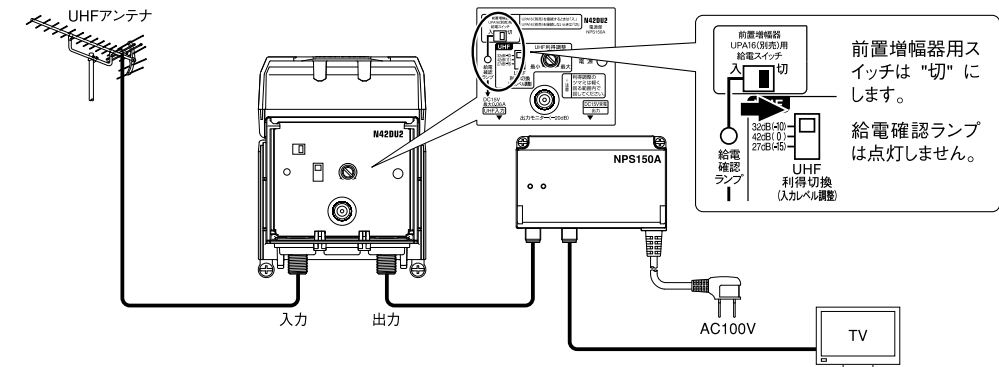
- DC15V出力端子のショート（短絡）時は、電源部内部の保護回路が動作して機器本体の破損を防止します。
- AC100Vで電源に接続してもランプがつかない時は、配線上でショートしていることが考えられます。すぐに電源プラグを抜いてショートの原因を取り除いてください。

ショート（短絡）要因例		対 応
ケース1	UHF入力端子に直接UHFアンテナを接続した状態で前置増幅器用スイッチが "入" になっている場合	前置増幅器用スイッチを "切" にしてください。
ケース2	電源部と増幅部間の配線で同軸ケーブルの芯線が折れ曲がったり、編組線が芯線に触れたりしている場合	F型接栓の加工部分など短絡している部分がないか確認のうえ、短絡箇所を修正してください。

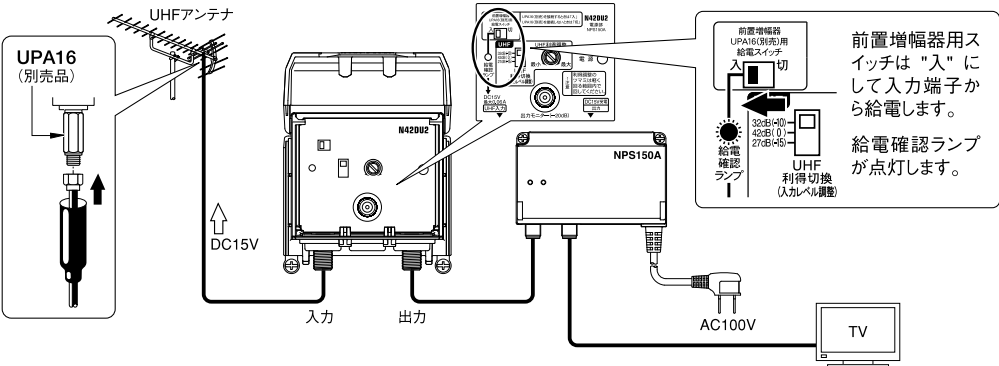
使用例（接続例）および調整方法

●使用例1 前置増幅器（別売）を使用しない時

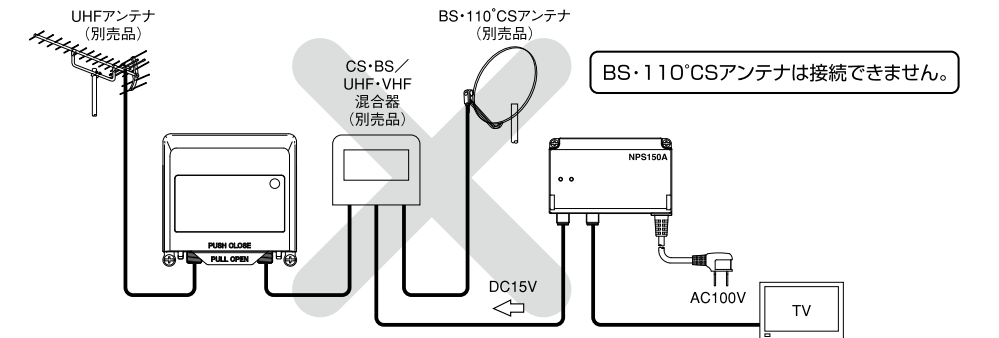
注意 前置増幅器用スイッチは必ず "切" にしてください。ショートの原因となります。



●使用例2 別売の前置増幅器（地デジブースター UPA16）を使用する時



注意 下図のようにN42DU2の電源部（NPS150A）でBS・110°CSアンテナを動作させないでください。故障の原因となります。



■UHF帯域の入力レベル調整と利得調整について

- テレビ画面が映らなかつたり（ブラックアウト）、モザイク状のノイズ（ブロックノイズ）が出る場合は、電波が強すぎるかまたは、電波が弱いことが考えられます。
- 製品出荷時の利得切換スイッチの設定は、32dB側（上側）に設定されています。

●UHFの受信電波が弱い場合

UHF利得切換スイッチ42dB側（中央）に切り換えてUHF利得調整ツマミを調整してください。それでも改善しない場合はアンテナの方向や設置位置を確認し改善してください。

●UHFの受信電波が強い場合

UHF利得切換スイッチ27dB側（下側）に切り換えてUHF利得調整ツマミを調整してください。それでも電波が強い場合は、別売の減衰器（アッテネーター）を入力端子、もしくは受信アンテナの出力端子に接続してください。

■適正入力レベル範囲

利得切換スイッチ（減衰量）	利得切換スイッチが左図の時の適正入力レベル範囲	
	利得調整ツマミ最大の状態	利得調整ツマミ最小の状態
42dB (0dB) 32dB (+10) 42dB (0) 27dB (+15)	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：40～61dBμV	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：40～71dBμV
32dB (～10dB) 32dB (+10) 42dB (0) 27dB (+15)	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：50～71dBμV	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：50～81dBμV
27dB (～15dB) 32dB (+10) 42dB (0) 27dB (+15)	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：55～76dBμV	UHF利得調整 最小 最大 適正入力レベル：55～86dBμV

ポイント

- 本器には～20dBの出力モニター端子がありますので、市販のレベルメーターなどを接続して出力レベルを確認することができます。
- 出力モニター使用後は必ずカバーを開けてください。

安全上の注意	
絵表示について	
	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例	
	△記号は注意（注意・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

警告	
	●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定場所に置かないで、指定の固定方法で取付けてください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
	●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると、火災・感電の原因となります。
	●万一、本品を落としたり、破損した場合には、電源プラグをコンセントから抜いて販売店工事業者にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

	●雷が鳴りしたら、アンテナ線、機器には触れないでください。感電の原因となります。
	●本品上面のカバーをはずしたり、改造したりしないでください。また、本品の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店工事業者にご依頼ください。

注意	
	●お手入れの際は安全のため、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。
	●湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所（調理台や加湿器のそば）に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。故障や火災・感電の原因となることがあります。
	●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	●本器の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。
	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて外部の接続コード（アンテナ線、機器間の接続コードなど）をはずしたことを確認の上、おこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	●本品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。 ◆次のような使い方はしないでください。 ○本品を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。 ○テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置く。 ○お向付けや横倒し、逆さまにする。

	●本品の開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。また、本品の上に小さな金属物（クギ、針、ヘアピン、クリップピンなど）を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。
	●電源プラグの刃や刃の付近に、ホコリや金属物が付着しているときは、プラグを抜いて乾いた布で取り除いてください。
	●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	●本品に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
	●お手入れの際には、ベンジン、アルコール、シンナーなどは使わないでください。塗装がはげたり、変質することがあります。お手入れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
	●本品の取付工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
	●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	●本器の上に他の機器を乗せたり、本器を他の機器の上に乗せないでください。他の機器の発熱によって、本器内部の温度が上がり、故障の原因になることがあります。

標準性能表	
-------	--

●増幅部

項 目	型 名	N42DU2	備 考
周 波 数 帯 域 (MHz)		UHF	
		470～710	
		(13～52ch)	
		42	
利 得 (dB)		32	切換式、標準値 (入力レベル調整)
		27	
		0～10	
利 得 調 整 範 囲 (dB)		40～86	連 続
適 正 入 力 レ ベ ル (dBμV)		103 (9波)	
定 格 出 力 レ ベ ル (dBμV)		1.5 ※1	利得最大
雑 音 指 数 (dB)		75	F型
入 力 ・ 出 力 イ ン ピ ー ダ ン ス (Ω)		3以下	
電 圧 定 在 波 比		－68以下	
3次相互変調 [IM3] (dB)		－50以下	
ハ ム 変 調 (dB)		－20	標準
出 力 モ ニ タ ー 結 合 量 (dB)		DC15/0.07	増幅部
受 電 電 圧 / 電 流 (V/A)		3.0	
消 費 電 力 (W)	入力端子送電時	4.8	※2
給 電 容 量 (V/A)		DC15/0.06	入力端子
使 用 温 度 範 囲 (℃)		－10～＋40	※3
外 形 寸 法 (mm)		高さ82.5 幅83 奥行50	
質 量 (kg)		0.25	

- 適正入力レベル範囲はチャンネル数および各チャンネルのレベル差などにより多少異なります。
- 入力端子へ15Vの送電が可能です。（入/切 切換スイッチ、確認ランプ付）

●電源部

項 目	型 名	NPS150A
周 波 数 帯 域 (MHz)		10～1000
挿 入 損 失 (dB以下)		1.2
電 圧 定 在 波 比 (以下)		1.5
電 圧 (V/W)		AC100 (50／60Hz)／5
入力・出力インピーダンス (Ω)		75 (F型)
重 畳 電 圧 (V/A)		DC15／最大0.15
使 用 温 度 範 囲 (℃)		－10～＋40 ※3
外 形 寸 法 (mm)		高さ57.5 幅91 奥行38
質 量 (kg)		0.34 ※4

※1 470～490MHz、680～710MHzは2.5以下

※2 地デジブースター：0.06A

※3 本体周囲温度

※4 電源部単品

●接続モニターランプ付き

- ※1 470～490MHz、680～710MHzは2.5以下
- ※2 地デジブースター：0.06A
- ※3 本体周囲温度
- ※4 電源部単品

- 接続モニターランプ付き

保 証 書	
型 名	N42DU2
お 客 様	お名前 ご住所 電話番号 ()
お買上げ日 年 月 日	取扱販売店名・住所・電話番号
保証期間（お買上げ日より） 本体 1 年 （但し消耗品は除く）	

- 保証期間内で多次の場合には有料修理とさせていただきます。
①使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
②お買い上げ後の取付場所の移送、輸送、落下などによる故障および損傷。
③火災、爆発事故、落雷、地震、噴火、水害、津波など天変地異または戦争、暴動など破壊行為による故障および損傷。
④海岸付近、温泉地などの地域における公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）など腐食性の空気環境に起因する故障および損傷。
⑤ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する故障および損傷。
⑥異常電圧、電気の供給トラブルなどに起因する故障および損傷。
⑦用途以外で使用した場合の故障および損傷。
⑧塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑨消耗部品の消耗に起因する故障および損傷。
⑩日本国以外で使用された場合の故障および損傷。
⑪本書のご提示がない場合。
⑫本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
- ご贈答品などで本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けにならない場合は、最寄りの弊社支店・営業所・出張所にご連絡ください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
(This Warranty is valid only in Japan)
5. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については最寄りの弊社支店・営業所・出張所にお問い合わせください。

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法（付属品）	
----------------------------	--

◆用意するもの カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ベンチ。	① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1mm程度）		⑥ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをベンチなどでつまんでしっかりとつぶしてください。
■各部の名称 	② 外被をむき、アルミリングを通しておきます。		
防水キャップは同軸ケーブルに通してください。 	③ 外被から2mm程度はなしで絶縁体をいねいに切り落としてください。		
	④ 編組線をめくりあげます。		
	⑤ 編組線から3mmはなしで絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。		
※付属の防水キャップは接栓を取付けた後からでも通すことができます。			
⚠ 注意 加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。			
●F型接栓 締付トルク 約2.0N・m (約20kgf・cm)			
ポイント ●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。 ●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合は、きれいにとってください。 ●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを交換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）			

使用上の注意	
--------	--

- アンテナレベルについて
- デジタルテレビなどの“アンテナレベル”の数値は、アンテナ設置方向を確認する際の目安値です。電波の強さを表す値ではないため、本器を使用しても大きくなるとは限りません。
- デジタル放送受信について
- 本器設置後、テレビ画面が映らない（ブラックアウト）、画面上にモザイク状のノイズ（ブロックノイズ）などの症状が出る場合は、調整の他に以下の項目をご確認（調整して）ください。
ーテレビ（チューナー）への入力レベルが低い場合ー
 - 地上デジタル放送受信の場合は、受信エリアをご確認ください。
 - アンテナの位置、方向および高さなどを、調整してください。
ーテレビ（チューナー）への入力レベルが高い場合ー
 - テレビのアンテナ入力端子に減衰器（アッテネーター・別売品）を取付けてください。

- チャンネル間のレベル差が極端に大きいと、レベルの低いチャンネルにモザイク状のノイズ（ブロックノイズ）などが出る場合があります。

機器の接続について

- 入力端子・出力端子のケーブル配線および接続は確実におこなってください。（入力端子・出力端子のケーブル配線や接続方法が悪いと画像不良の原因となります。）
- F型接栓の接続は確実におこなってください。F型接栓がゆるんでいると、風によるケーブルの振動などにより、F型接栓がはずれることがあります。ケーブルは別売のインシュレーターでしっかりと固定してください。
- 電源部とブースター（増幅部）の間に電流通過型ではない分配器などが接続されていると、本器は正しく動作しません。電流通過型の分配器などをご使用ください。また、電流通過端子に接続されているかご確認ください。
- UHF入力端子に別売の前置増幅器（地デジブースター UPA16）を接続しない場合は、必ず給電スイッチを「切」にしてください。地デジブースターを接続しないで給電スイッチを「入」にすると接続されたアンテナにより電源がショートし、ブースターが正常に動作しません。

- 本器はFM・VHFは通過しません。
- 出力モニターは出力レベルより20dB少ない値を出力します。測定後は必ずカバーを開めてください。

電源部について

- 電源部は本器専用です。他のブースターなどに使用しないでください。
- 電源部は少し温かくなりますが、これは電子部品の放熱作用によるもので本品の故障ではありません。

お客様窓口		0570-091039	ご利用時間 9:00～12:00 13:00～17:30 （土・日祝祭日・弊社休業日を除く）
-------	--	-------------	---

ナビダイヤルが利用できない場合は ☎(03)3893-5243

日本アンテナ株式会社

本社/〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8
（ホームページアドレス）https://www.nippon-antenna.co.jp

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。
7113499 2018年9月改訂